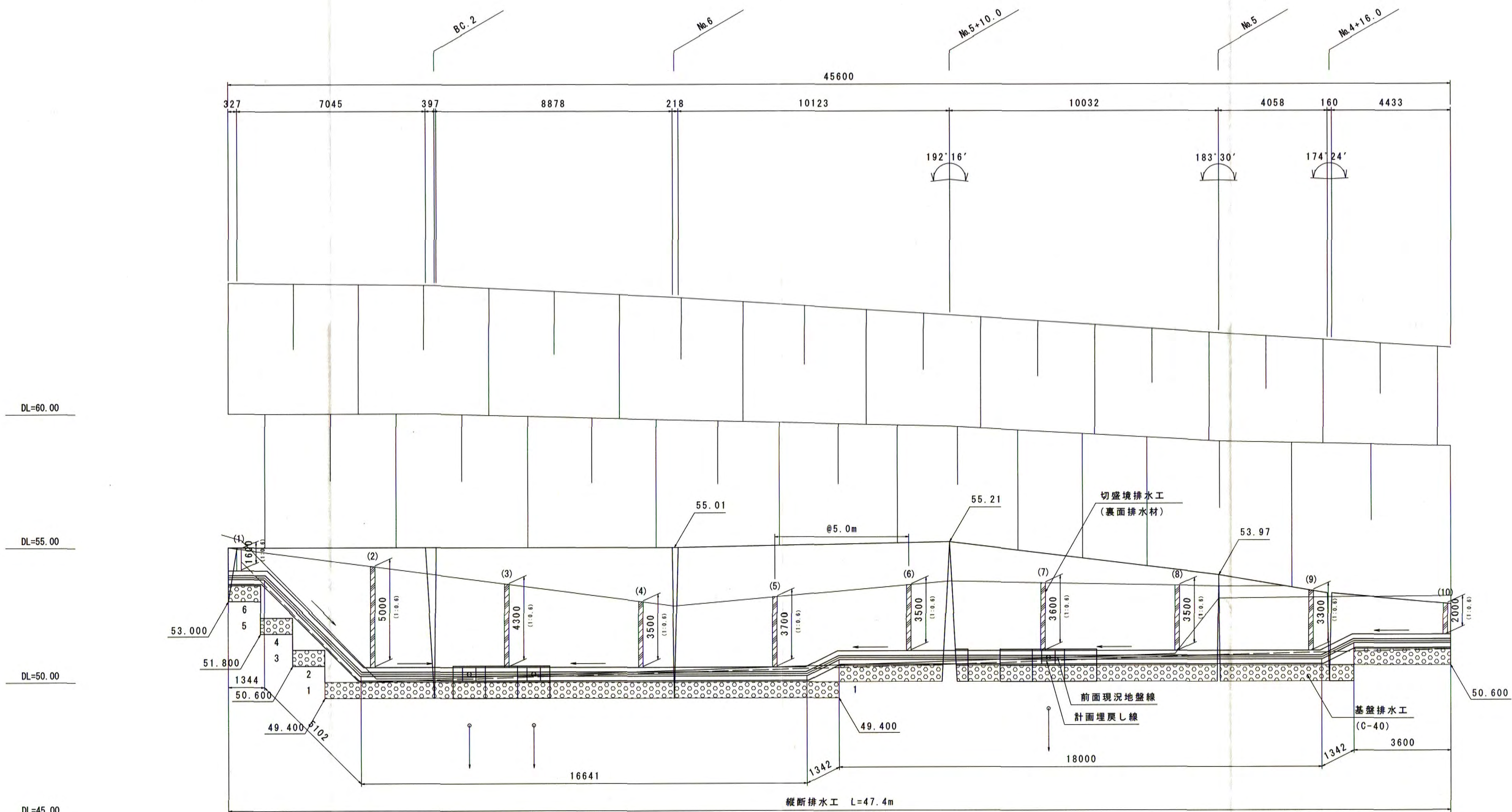


補強土壁工排水計画図

S=1:100



特記事項

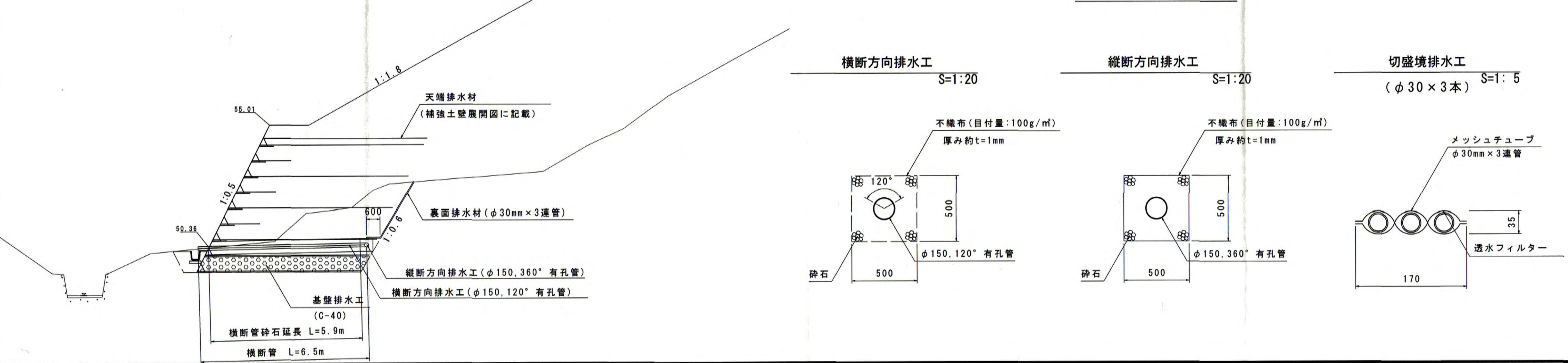
基礎排水工	補強土壁の底面には、地下水および地山からの湧水等による補強領域内への浸入を防止し、速やかに補強領域外に排除するため、基礎地盤の表面に厚さ50cm程度の基礎排水工を設置する。 基礎排水工には、砕石または砂等の透水性が高く、せん断強度の大きい土質材料を用いるものとし、透水係数は $1 \times 10^{-2} \sim 1 \times 10^{-1} (cm/s)$ 程度以上、かつ盛土材料の透水係数の100倍程度以上とする。 基礎排水工に細粒が浸入することが考えられる場合は、基礎排水工の上面に吸出し防止材（ジオフリースなど）を敷設する。
切盛境排水工	水が集まりやすい切盛境や掘削のり面には切盛境排水溝を設ける。排水材料としては、砕石または砕石と同等の排水機能を有する透水マット（モノドレン、エンドレンマット、エンドレンマトリップなど）を用いる。 この場合の設置間隔の目安は、モノドレン、エンドレンマトリップ型を用いる場合は5m、エンドレンマット（耐圧型）を用いる場合は2mを目安とするが、湧水の状況に応じて設置間隔や配置を決定する。 調査の時点では予測されなかった湧水があるときは、その程度に応じて別途適切な排水施設を計画する。
横断方向排水工	補強土壁の横断方向には、横断方向排水工を20m程度の間隔で設け、補強土壁の最深部には2箇所設置する。
縦断方向排水工	水が集まりやすい切盛境や掘削のり面の小段には、湧水量の程度に応じて適切な縦断方向排水工を設ける。
小段排水工	補強土壁天端には盛土内への水の浸入を防ぐためのシールコンクリートや排水溝を設ける。

工種	種別	規格寸法	単位	数量
切盛境排水	表面排水材	W=170, t=35 (φ30×3連管)	m	35.7
	有孔管 (縦断管)	φ=150 360° 有孔	m	49.7
縦断・横断方向排水	有孔管 (横断管)	φ=150 120° 有孔	m	20.2
	不織布	目付量:100g/m ²	m ²	135.8
	砕石	C-40	m ³	15.8

φ: 直径 (mm), W: 幅 (mm)
数量はロス率含む

- は、縦断管勾配方向を、
- は、横断管排出位置を示す
- * 縦断排水寸法は敷設長表記
- * 切盛境排水材の寸法値は斜率を考慮した値
- * 横断管表記 () 数値は砕石部の延長

排水工詳細図



起工

路線名	宇治第2事業所
岩美道路等の建設に係る建設発土受入事業所造成工事 (第2事業所)	
図名	補強土壁工構造図4 (排水計画図)
位置	岩美郡岩美町宇治
縮尺	1:100
単位	M, MM
図号	全 24 葉中の内 17
平成28年度施行	
公益財団法人 鳥取県建設技術センター	